

科目名	総合演習Ⅳ A					単位	2.0
担当教員	井上 薫						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	4	授業番号	3257

●授業のテーマ

子どもと家族への支援について考える(2-2)総括

●到達目標

研究をまとめ、報告できるようになる。

●学習内容(授業概要)

3年次から準備してきた研究テーマについて、総合的・包括的・現実的な検討を加え、ひとりひとりが報告書にまとめる作業を行う。最終学年のゼミであるので、大学生生活の総括として取り組むことを期待している。ただ単に、先行研究を紹介するのではなく、それぞれの実践またはオリジナルな視点をぜひ盛り込んでほしい。発表資料の作成方法、発表の仕方、討論の仕方、研究報告書の作成方法などについても指導を行っていく。

なお、3年次に引き続き、児童福祉臨床(ケアワーク、相談援助活動など)についてもグループワーク等の方法により体験的に出会えるようにしていきたい。

参加者の意欲、努力や工夫のひとつひとつが、それぞれの個人的な資源(能力や強さ)として実を結ぶことを願っている。

●学習内容(授業計画)

1. 研究報告の方法についてオリエンテーション
2. グループワークの企画
3. グループワークの実施(1) 児童相談(介入)
4. グループワークの実施(2) 児童相談(見立て)
5. グループワークの実施(3) 児童相談(支援の実施)
6. 研究のまとめ方、プレゼンテーション(1) 心理学的研究
7. プレゼンテーション(2) 児童家庭福祉制度
8. プレゼンテーション(3) 児童家庭相談
9. プレゼンテーション(4) 社会的養護
10. プレゼンテーション(5) 保育、地域子育て支援
11. プレゼンテーション(6) 障がいを持つ子どもへの支援
12. ゼミ体験の共有(1) 強み
13. ゼミ体験の共有(2) 学んだこと
14. ゼミ体験の共有(3) これからの希望
15. 総括(ふりかえり)

●準備学習・事後学習の内容

準備学習として、テキストおよび配布資料の該当の部分を読んで要約しておくこと。事後学習として、授業時に示された課題についてまとめておくこと。

●成績評価方法・基準

平常点（発表、討論、グループワークへの参加）（30%）および研究報告書（70%）の内容により評価する。

●テキスト（必携）

なし

●参考文献／その他

特になし。

●履修上の注意

授業に欠席・遅刻しないこと。

\* 研究報告書では、適切な引用法を心がけること。本やインターネットなどの資料の丸写しは禁止。